



アサガオのような1年生

7月になり、1年生が5月に植えたアサガオがどんどん花を咲かせています。毎朝の水やりを忘れず、一日一日、大切に育てたアサガオが、今、たくさんの花をつけようとしています。大きく育ったアサガオを見ながら、私は、「1年生に似ているな。」と感じました。



1年生の発表はユニークで、大人顔負けです。



体育館にある道具について、発表した子もいました。

それは、6月末のことでした。1年生担任の先生が、「子どもたちが学校のことを調べたので、発表会に来ていただけませんか。」と声をかけてくれました。楽しみにしながら、教室の扉をあけると、そこには、私が想像していた以上の姿がありました。なんと！1年生が、タブレットを使いながら、発表をしているのです。

例えば、ある子は、学校の中の屋上に目をつけました。屋上で撮影した写真を友達に見せながら、発見したこと、思ったことをつけ足していきます。「これは、学校の屋上からの写真です。いい眺めですね。」の一言に、思わず吹き出す私。すばらしいのは、屋上にあるライフジャケットや、防災グッズにも注目していることです。「地震がおこったら、津波がくるので、屋上に避難します。その時に使います。」と、説明できました。

また、ある子は、給食室に注目しました。給食室は残念ながら、衛生面の都合で、中に入ることができません。それでも、廊下から給食室をのぞき込み、気になったポイントを写真におさめます。すばらしいのは、時計や大きな鍋に注目したことです。このことから、調理士の方が、たくさんの人の給食を作っていること、そして、お

昼の時間に間に合うように作っていることがわかるのです。

子どもたちは一人ひとり、学校のいろんな場所に興味をもって調べていました。そして、タブレットにまとめ、友達にわかりやすく発表していました。「校長先生は、これぐらいの発表かな？と思っていただけ、これぐらいの発表でした。」と大きく手を広げました。そして、「みなさんの家族の人が見たら、泣いてしまうぐらいうれしいと思います。それぐらいに素晴らしい発表でした。」と付け加えました。

それから1週間してから、また1年教室にお邪魔すると、今度は、水彩画にチャレンジしています。「バケツの水をこぼして床が水たまりにならないかな?」「思い通りに塗れずにぐちゃぐちゃにしないかな?」と思って見ていたのですが、そんな心配は無用。この日のお題は、「カラフルな傘」。子どもたちは思い思いに、自分が気に入った色で傘をデザインして、上手に作品を仕上げていました。みんなが大満足の様子でした。



絵の具を使って、カラフルな傘を仕上げています。

入学してから3か月あまり。日々、学びを増やし、日々、成長する姿を見て、1年生のこれからがますます楽しみになりました。

1年生担任の先生より

Q：1年生という学年を教える魅力は何ですか？

A：私は1年生を教えるのは6回目になります。1年生という学年は、どの子ども学校を楽しみたいとか、できるようになりたいとか、強く思う学年だと思うんですね。それをいっしょに叶えていく、それが楽しいんです。このタブレットの授業も、こんなことやったら楽しいと思って計画したら、子どもたちがすごく喜んでやってくれて、うれしかったです。

Q：今年の1年生は、先生の中で、どんなイメージですか？

A：どの子どもも前向きで、一生懸命ですね。こつこつ積み重ねて、できるようになっていく子が多いです。「続けてやっていかなあかんのやよ。」っていうと、どの子どもも続けてやっていく、そんなイメージです。ひらがなが読めない子がすらすら読めるようになったり、健康観察の時、小さい声しか出なかった子が大きな声で「はい、元気です!」と言えるようになったりしました。素敵な子たちだなと思います。

Q：1学期の中で、印象的な場面は何ですか？

A：クラスで「肉まんじゃんけん」というゲームをしたことがあったんですが、ルールが分からない子がいたら、声をかけて、みんなが楽しめるようにしていたのはうれしかったですね。それと、1年生だけで体育をした時、「今日は2年生がいないから、ぼくらがやらなきゃ!」と言って、体育館の扉を開ける、扇風機をつける、といったことをやりはじめたんですね。その時に、「2年生のいい手本から、この子たちは、ちゃんと学んでいるんだ。」と思ってうれしかったです。その後、笑い話で、「先生、コンセントはどこにどうやってさすのですか?」と言って、かわいかったです。こんな風に、1年生が成長できたのは、2年生の影響とか、4月から6年生がそうじや給食とかを教えてくれたことが大きいですね。

Q：これから2学期に向けて、子どもたちと頑張りたいことはありますか？

A：子どもたちと国語の物語を読み深めていきたいですね。豊かなイメージをもって、感想を話せる子どもを育てたいですね。それで、「ぼくは、こう思った。」「わたしはこう思った。」と、子どもたちと語り合いたいです。